

日本平夢テラスの指定管理に係る外部評価委員会の評価結果について

令和4年2月10日
静岡県スポーツ・文化観光部
観光交流局観光政策課

1 評価の趣旨

日本平山頂シンボル施設（愛称：日本平夢テラス）における指定管理者の令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）の管理運営実績を外部有識者により評価し、より適正な管理運営や提供するサービスの向上に繋げていくため、外部評価委員会を実施した。その評価結果は89点（100点満点）であった。詳細は以下のとおりであり、今後の指定管理業務の改善に活用していく。

2 指定管理の概要

(1) 指定管理者

A S C日本平グループ

代表企業 アクティオ株式会社

構成団体 静岡ビル保善株式会社

特定非営利活動法人コンベンション静岡

(2) 指定管理期間

平成30年10月1日から令和5年3月31日まで

3 評価項目と配点

評価項目	1人当たりの 持ち点	計 (5点×5人)	
管理運営の基本方針	5点	25点	
施設への来訪促進	満足度向上、誘客活動、 ラウンジ運営、自主事業、地域連携	5点	25点
適正な施設管理	5点	25点	
安定的な経営管理	5点	25点	
昨年度の指摘事項の改善状況	5点	25点	
計	25点	125点 ※発表時は 100点満点に換算	

5点「非常に優れている」 4点「やや優れている」 3点「標準」

2点「取組の見直しが必要」 1点：根本的な改善が必要（

4 委員

氏名	職名
八木 健祥（委員長）	静岡県公立大学法人 静岡県立大学 大学院 経営情報イノベーション研究科長 教授
久保田 隆	静岡市ホテル旅館協同組合 代表理事
白鳥 三和子	税理士法人 静岡みらい 代表社員
池田 文信	公益財団法人 するが企画観光局 専務理事
中村 泰昌	一般社団法人 静岡県商工会議所連合会 専務理事

5 評価結果

評価項目	評価点	前年度
管理運営の基本方針	24点 / 25点	25点 / 25点
施設の来訪促進	満足度向上、誘客活動、 ラウンジ運営、自主事業、地域連携	22点 / 25点
適正な施設管理	22点 / 25点	21点 / 25点
安定的な経営管理	22点 / 25点	22点 / 25点
昨年度の指摘事項の改善状況	22点 / 25点	23点 / 25点
合計	111点 / 125点	113点 / 125点
100点満点換算	89点 / 100点	90点 / 100点

6 委員の主な意見

(1) 管理運営の基本方針について

- ・ コロナ禍において、緊急事態宣言延長に伴う休館期間が長かったにも関わらず、来館者数が目標を上回っている点は評価できる。
- ・ 日本平夢テラスが一つの集客力の象徴になっていることは事実であり、その集客を周りに波及させてほしい。
- ・ アンケート調査をやることは良いことであり、管理運営における課題の抽出に関わるため、継続的に取り組むとともに、得られた意見を分析しPDCAを回してほしい。
- ・ 今回はコロナの影響で中止になったとのことだが、静岡市のお茶の日（11月1日）にちなんだ取組を実施してもらえるとありがたい。

(2) 満足度向上について

- ・ ラウンジの売上げが目標を大幅に超えているのは高く評価できる。
- ・ ラウンジや自主事業については「こだわり」が必要だと思っている。静岡県産であり、周辺の事業者が生産する食材を使っていくことは良いこと。
- ・ 来館者アンケート、来館者の声を通じ、次回以降のイベント企画内容に反映することで、企画内容のブラッシュアップを図ってほしい。

(3) 誘客活動（広報、営業活動）について

- ・ メディアや旅行者等の関係機関への営業活動においては、日本平夢テラスだけではなく、周辺施設まで一体となって売り込みをしていくと良い。
- ・ 今年、中部横断自動車道が開通したことに伴い、その人流・物流が活発化している。山梨県に対しても、集中的なプロモーション活動をしたら良いと考える。

(4) 地域連携について

- ・ 観光業が疲弊している中で、継続的に来館があるのは、やはり無料施設であるということが大きいと考える。ロープウェイなどの周辺にある有料施設等と連携しながら観光客の周遊促進に取り組んでほしい。

(5) 安定的な経営管理について

- ・ 収支の状況等において、大きく増減している箇所については、簡潔に説明すること。

(6) 前回の指摘事項への対応について

- ・ ほぼ対応されている。